

教育センターだより



秋号に寄せて

鳥取県教育センター
所長 坂本修一

ホトトギスの声も、気づく
といつの間にか聞こえなくな
っています。「魂が行き来す
る道筋」である海を渡って、
東南アジアの国々に帰ってい
ったのでしょう。

そしてもう、北から渡っ
てきたガンやカモが、鉤に
なり棹になり群れ飛んでいる
様子が見られています。

かつてみちのくでは、春
になって砂浜に打ち寄せられ
ている木片を、渡りの途次、
海で休むために啣えてきて、
北に帰ることができず、
日本で死んだ雁の魂だと考
えて燃やす、雁供養というこ
とが行われたとも聞きます。
悲しい話ですが、海を行き
来する鳥たちは、ほんとうに
人々の魂なのかもしれません。

県内各学校では、残された
今年度の取り組みを着実に実
施するとともに、来年度の取
り組みについてご検討なさっ
ていることだと思います。

教育センターでも、来年度
の取り組みをよりよいものに
するため、先日、今年度第2
回目の「教職員研修等実施協
議会」を開催させていただきました。
協議された内容は教職員研
修に限ったものではなく、セ
ンター4課1室の業務全てに
関わるものです。

残された今年度の期間はも
ちろんのこと、来年度の取り
組みについても、誠意という
魂を込めて企画させていただきました。
こうと考えておりますので、
みなさまのご理解と協力を
よろしくお願い申し上げます。



オリンピック強化選手の食事に学ぶ



研修当日の様子

10月12日(金)に、県福祉人材研修センターを会場として、専門研修「食育」を実施しました。この講座は、競技スポーツ選手の食事に学ぶことをと

おして、児童生徒の健康な体づくりをめざした食生活の指導力向上をねらい、実習を盛り込んで企画したものです。小・中・高・特別支援学校の教諭、栄養教諭、養護教諭など様々な職種や職種を交えた38名が受講し、食育への関心の高さを改めて感じたところです。講師として立命館大学の海老久美子教授をお招きし、午前中には「オリンピック強化選手の食事に学ぶ～栄養と食べ方～」の講義を、

＝受講者の声＝

スポーツ栄養を指導されている先生の生の話をうかがい、わかりやすくよかったです。実習を通して実際の食事の量が確認できてよかったです。

スポーツ栄養だけでなく、栄養アセスメントの大切さと成長期の食事について聞くこともできよかったです。

部活動指導において、体力、技術指導だけでは不十分であることを痛感し、食育の知識や実践が必要不可欠であることがわかった。

研修企画課

午後には「健康な体作りをめざしたレシピ」と題した実習でご指導いただきました。

【アスリートのための朝食メニュー例】



＝夏MENU＝

- ◆貝たくさん冷やしうどん
- ◆納豆巻きご飯
- ◆オレンジヨーグルトドリンク



＝冬MENU＝

- ◆まるかぼちゃのスープパスタ
- ◆キャベツとハムのオープンサンド
- ◆シリアルフルーツヨーグルト



朝食の大切さを伝えてね



教育相談課

子どもの困り感に寄り添う支援を

教育相談課では、子どもの健やかな成長や発達を願って、幼児・児童・生徒・保護者・学校関係者の方々に教育相談を行っています。

平成19年度より「特別支援教育」がスタートしました。最近相談を受けていることは、「特別支援」や「発達障がい」という言葉だけが一人歩きしているような感があり、大きな誤解を招いているということです。例えば、子どもに何らかの特性を感じたら、「AD/HD?」「発達障がい?」など確定診断がないのに自分たちの主観で判断していることに大きな危惧を感じています。また、障がい名が同じだからといって、みんながみんな同じ状態を示すわけではなく、「置かれている環境」や「年齢」等によって抱える課題のしんどさに違いが出てきます。

まずは、教師も保護者も「障がい名・診

断名」にとらわれることなく、「なぜ、こんな行動をとるのだろうか?」と様々な角度から子どもの行動特性を見つめることが一番大切です。診断名は、「この子の今とこれから」をきちんと見据えられるきっかけにしてほしいと願っています。また、発達障がいについての正しい知識と情報を保護者に伝えていくことの大切さも痛感しています。

子どもは、「自分が思うようにいかないこと」「周囲の期待にそえないこと」に困っています。保護者は、「自分の対応がうまくいかないこと」に悩み、「親亡き後、子どもがどのように生きていけるか」を心配しています。子ども・保護者の困り感に寄り添い、子どもの持っている力が発揮できるような、そんなお手伝いができれば嬉しいと思っています。ぜひ、ご相談ください。



教育センターでの教育相談活動の
一コマ

情報教育課

Torikyo-NET 機器の更新をしました

いろいろご不便をおかけしましたが、9月初めに Torikyo-NET 機器がクラウドに移行されました。この作業により、災害への備えやセキュリティ強化のほか、機器の二重化やサーバの常時監視を行い、故障等で使用できない時間の短縮を図り、インターネットの通信速度が改善されました。

これからも、より使いやすい Torikyo-NET サービスを目指し、運用を行っていきたく思いますので、ご理解ご協力をよろしくお願いします。

学校情報公開システムNetCommons ver.2の申請手続きをお願いします

上記の移行に伴い、Net Commons(Ver.2)を新たに設置いたしました。

Net Commons (Ver.2) を利用される場合には、所定の様式（教育センターホームページ

か学校代表メール宛での文書をご覧ください。)に記入していただき、鳥取県教育センター宛てにファクシミリかメールでの申請をよろしくお願いします。

平成26年8月で、Net Commons(Ver.1)のサービスは終了となりますので、早目の検討をお願いします。

申請受付はこちらです。
【FAX】0857-28-8513
【E-mail】help@mailk.torikyo.ed.jp



10月27日(土)
教育セミナー「これでパッチリ!!『NetCommons ver.2』活用講座」の様子

紡がれる言葉
次長 松岡 一

先日放映されたテレビ番組の中で紹介されたiPS細胞の山中教授の言葉。「予想通りにならない結果も大事な結果」この言葉に力づけられたと、かつて山中研究チームで偉大なる発見に至る実験を任せられた若い研究者は語っていた。

この番組を見ながら、かつての勤務先の校長が中学生に語った言葉を思い出していた。「勉強や研究は、最初はつまらないかもしれないが、続けているとおもしろくなってくる。成功は1%のアイデアと99%の努力に支えられている。」校長はイオン液体を合成した世界的な有機化学者であるが、自身の成功や権威をかさに、努力すれば報われるとする短絡ではなく、継続の価値がいわば「生きる力」に変換されることの大切さを説いたものだ。

「学び続ける教員像」というキーワードが中教審答申で説かれている。先日の10年経験者研修受講者の事後アンケートの言葉。「10年目の節目として、自分の立ち位置とこれから歩むスタンスを考えさせていただく、いい機会になった。」「初任研の指導があるので、人を動かすということ、指導を通して実践してみます。」具体的な経験や熟考を通して、どのような言葉が紡がれ、他の人につながっていくのだろう。

最後に、当センター所長が織田萬の著作を読んで用いている言。「誠実に準備され、誠実に実施された研修講座は、もはや徳育である。」情報教育棟ロビーには、「研修講座」を「授業」と置き換えて掲示している。

教育研究のネットワークをつくりたい

本年度学校教育支援室では学校や先生方との新しいつながり方を模索しています。学校教育支援室も研究テーマを提案し、室の事業を活用しながら少しずつ実践を集めたり、それについて情報交換や協議を行ったりしようというものです。

例えば、スーパーバイザー事業で取り組んでいるテーマの一つ「コミュニケーション教育」では、演劇などの芸術表現が教育にどのような効果をもたらすかを先生方と一緒に考えようとしています。鳥の劇場の方々と連携しながら、各学校で行われている演劇などの活用実践を集めていますが、8月18日

(土)には、このテーマによる教育セミナーを開催し、鳥取西高演劇部さんの協力を得てのワークショップと参加者による協議も行いました。

学校教育支援室

また、8月25日(土)の教育セミナーでは「持続可能な発展のための教育」(ESD: Education for Sustainable Development)の考え方を国立教育政策研究所の角屋重樹先生・西野真由美先生のお二人に紹介していただく機会を持ちました。当日は40名の参加をいただきましたが、ここを出発点としてESDに関する情報交換や実践研究が進むことを期待し、そのためのネットワークづくりをしたいと考えています。

他にも県内で進む学校統合について聞き取りを行ったり、兵庫教育大学の浅野良一先生に指導を受けながら協議する場を持つたりしています。これらのテーマについて、関心をお持ちの方はぜひ、学校教育支援室にご連絡ください。



教育セミナー等での協議の様子 (左からコミュニケーション教育・ESD・学校統合に関わるマネジメント)